世界へ踏み出した一歩

岩佐 夏帆

この交流事業は私にとって、一生に一度しか経験できないようなことが詰まっていた。「こんなこと、もう二度とないかもしれない。」そう思えたからこそ、一瞬一瞬を楽しみ、心に残るようなものにすることができた。

その代表としてホームステイがあった。私が以前から憧れていたホームステイは大人になったらなかなか経験できないものだ。だから、緊張や不安もあったがホストファミリーと積極的に話して、楽しもうと決めた。現地の子たちとも写真をたくさん撮って、一緒に笑って、仲良くすることができた。中学生のうちにそんなことを体験できたのは、本当に恵まれていると思う。

また、スイスの絶景をこの目で見たことも貴重な経験だった。ゴンドラに乗って見た、崖のごつごつした側面。ツェルマットの村からの朝日を浴びて先端がオレンジ色に染まったマッターホルン。なかでも、ユングフラウヨッホ展望台とゴルナーグラート展望台で、目の前に広がる氷河には圧倒された。あとから知ったことだが、スイスの氷河は地球温暖化の影響で溶けてきているらしい。実際になくなりつつあるものを見ることで、環境問題をより身近に感じ、それに対して自分ができることについても考えるようになった。

さらに、海外の人々は本当に気さくだということも、今回の研修で知ったことだ。スイスに着いた日のホテルでは、外国人の女性がエレベーターで乗り合わせたときに「ハーイ」とあいさつをしてくれ、嬉しかったのを覚えている。日本ではまずないことだが、短い間でも会話をすることで、出会いを大切にしているような気がして、いいな、と心の中で思った。

この交流を通して、私は言葉や文化・生活様式も違う人たちと関わり、人と人とのコミュニケーションの素晴らしさや世界の広さについて考えるようになった。姉妹都市どうしで中学生が訪問し合うことは、お互いのことを知り、視野を広げる良い機会だと思う。スイスでの感動を胸に、将来も外国に行って日本では得られないたくさんのことを経験したいと思う。